

セメント	三割八分	五割五分
紡績	一割一五分	二割五分
絹紡	一割二厘	三割一厘
亜細亞	五分	三割
人絹	五分	一割
手織	五分	三割
洋紙	三割五分	一割五分
和紙	三割五分	三割
肥料	三割	六割
石炭	三割	四割
製糖	二割	五割五分
製粉	二割	同
酒類	一割	七割八分
鹽類	一割	三割五分

本年における織、絹の生産減退は最も著しく（価格も同様だ）恐慌が、いよいよ重工業に移つたことを示してゐる。恐慌は一層深化したのだが、そればかりではない。世界金融危機につれて、金融恐慌、信用恐慌の機運が強まつて来た。日本は、すでに金融恐慌、九月までにおいて三億、千餘萬圓の金の純流出を見てゐた（日銀の正貨準備は十一億一千萬圓から八億一千萬圓に激減）が、十月に入つては、更に三千萬圓流出した。いはゆる「資本の逃避」が行はれた。また、日本銀行は、金の流出を防止し、金融の硬塞に對應するため

十月五日二厘の利上げを行つた。更に農事恐慌は、ますます猛烈で、昭和五年における農民の収入は、四年に比較して十二億五千萬圓、三割二分を激減したが、本年に入つては、上半期中において、更に、この激減した五年に比較してさへ、九千萬圓、二割八分の激減となつてゐる。おまけに本年の米は前年度より一割三分の内作豫想だ。酷だつてさうだ。

財政破綻が更に加つた。歳出は節約また節約で、十五億五千餘萬圓に減らしたのに、（昭和三年には十八億一千萬圓だつた）五年度の歳入は豫算より一億七百萬圓を激減して、結局、三千二百萬圓の赤字を出した。本年度は更に節約したが結局、一億以上の赤字を出すべく、更に、明年度はこれより一億二千萬圓の歳入減を傳へられてゐる。

日本恐慌はいまや、重工業に移り、農業恐慌をまき込んで金融恐慌の氣運を強くはらんで来た。この間若干の迂曲折はあつたが、これは、過去一ヶ年間に於ける日本資本主義の經濟的過程なのだ。もちろん、日本資本主義は本年上期において、我々の闘争力が未だ十分強力でなかつた、めに、貸下と大量解雇によつて、生産費を切下げ、海外のダンピング戦において有利に戦つた。そして、そこに恐慌の進行振りに若干の緩和を見せてゐたが、それすらも、いまや、世界恐慌によつて一掃されてしまつたのだ。

(2) 金融資本の發展

日本恐慌の激化は、それだけで無條件的に日本資本主義の没落ではない。我々は、第一に、恐慌過程に於いて、急激なる獨占と金融資本の發展を見る。次表を見よ！

(一) 巨大銀行の發展表

昭和元年末	三、六六二	同上の全國普通銀行	四〇・五
二年末	四、二五六	預金に對する割合	四七・八
三年末	四、七七一		五〇・七
四年末	四、九一六		五三・三
五年末	四、八二六		五五・八
六年下期末	四、九四四		五七・一

(二) 會社資本の集中表 (昭和四年末現在)

大會社(五百萬圓以上)	資本金	全體に對する割合
中會社(五十萬圓以上五百萬圓以下)	一、二七九	六五
小會社(五十萬圓以下)	六、三三六	三一
總計	六、六一一	四
	一九、六九二	一〇〇

のみならず、カルテルは、恐慌期間にもか、はらず、ますます横行し、五年以降に新たに作られたもの、みにて二十以上に及んでゐる上に、更に、既存のカルテルがあるひは再組織され、あるひは強化されてゐる。この間における三井三菱の巨大財閥の進入、侵略よりは最も露骨で、製糖、製紙、製

(3) 失業と賃銀切下げ

鋼をはじめ、いままで彼らの支配のおよばなかつた電力、海運にまで魔手をおぼしてゐる。また、彼らは、製糖、資本と結合して國家資本主義への傾向を強めてゐる。製糖合同、電機民營、製糖所拂下げ等には、直接の動機がどうであれ益々この傾向を強めるのみである。また、彼らは、新興的にして政治、軍事上重要な自動車工業、輕便工業において、政府と結びついてゐる。預金部資金、特殊銀行が、この金融資本と協力して、更にこの傾向を強めてゐる。

かくて恐慌過程に急激な發展を遂げつゝ、ある獨占的金融資本は、先づ、第一に、我々労働階級に對する遮二無二の攻撃に出でる。賃銀切下、大衆失業、操短がそれだ。

我々はこれを、次のブルジョア統計によつて示そ。

失業と賃銀の表

就業労働人員指數	一定額賃銀指數	賃銀指數
本年 前年	本年 前年	本年 前年
六月 六月	六月 六月	六月 六月
均 均	均 均	均 均
男 女	男 女	男 女
六三・七 六三・七	六三・七 六三・七	六三・七 六三・七
六三・七 六三・七	六三・七 六三・七	六三・七 六三・七
六三・七 六三・七	六三・七 六三・七	六三・七 六三・七

本年六月の就業労働者は、大正十五年から見れば七割五分足らずしかない。しかも、これは、五十人以上の工場調査である上に、鑛山、官吏、自由、農業の諸労働者を含んでゐる